



HPはこちら

東日本ユニオン NEWS

J R 東日本労働組合
発責 教育・広報部
2019年3月4日 No.65

勝ちとろう満額回答！勝ちとろうJR労働者の大同団結！ 2019春闘 第1回団体交渉を開催

＜東日本ユニオン 要求趣旨＞

- 「第3四半期決算」は、営業収益・運輸収入が7期連続の増収となり、第3四半期決算として過去最高を記録するなど、2018年度期末決算の業績予想は間違いなく達成できると見ている。
- 増収を実現してきた7期を振り返れば、東日本大震災からの復興を皮切りに新たな挑戦の連続であった。すべてのJR労働者の英知を結集させ、増収努力を重ねた結果が当社の右肩上がりの成長を実現させている。
- 短期的には、ゴールデンウィークの10連休や「ラグビーワールドカップ」、東京オリンピック・パラリンピックの開催など、インバウンド効果を含めた業績に対するプラス要素が多くある。
- 「生産性の向上」は、今にはじまった課題ではない。会社発足以降、さまざまな効率化施策が推し進められ、JR労働者の労働密度は年々高まりつつある。社員が年々減少している一方で、JR労働者が生みだす付加価値額は年々増加している。しかし、当社の労働分配率は年々減少傾向にあり、JR労働者の生みだした付加価値は適正に分配されていない。
- 私たちは生活者として、すでに生鮮食料品や生活必需品の値上げや高止まりに直面しているほか、10月1日に消費税が10%に増税される。
- 「住環境制度」における「社宅居住制限期間」と「賃貸住宅援助金の給付期間制限」の導入まであと3年。高額な教育費や住宅ローンなど、短期的にも中長期的にも衣食住に関する変化は、JR労働者の生活に大きな影響を与え続けている。社員は家族の理解と協力があってこそ「仕事」や「自己啓発」に集中できる。衣食住への不安が取り除かれてこそ、はじめてJR労働者と家族の幸福と心身の健康が実現できる。
- 変革への当事者意識を持ち、自らの成長を通じて当社グループの成長へと挑戦しているすべてのJR労働者の質の高い労働力にふさわしい賃金を支払う責務がある。
- 東日本ユニオンの賃金改善要求に対する満額回答は十二分に可能である。JR労働者の日々の努力に対する応分の成果を配分し「社員・家族の幸福の実現」を強く求める。

**経営側には支払い体力が十分にある！
力をあわせて、一律6,000円の満額回答を勝ちとろう！**